

クレジット:

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2020 石井剛

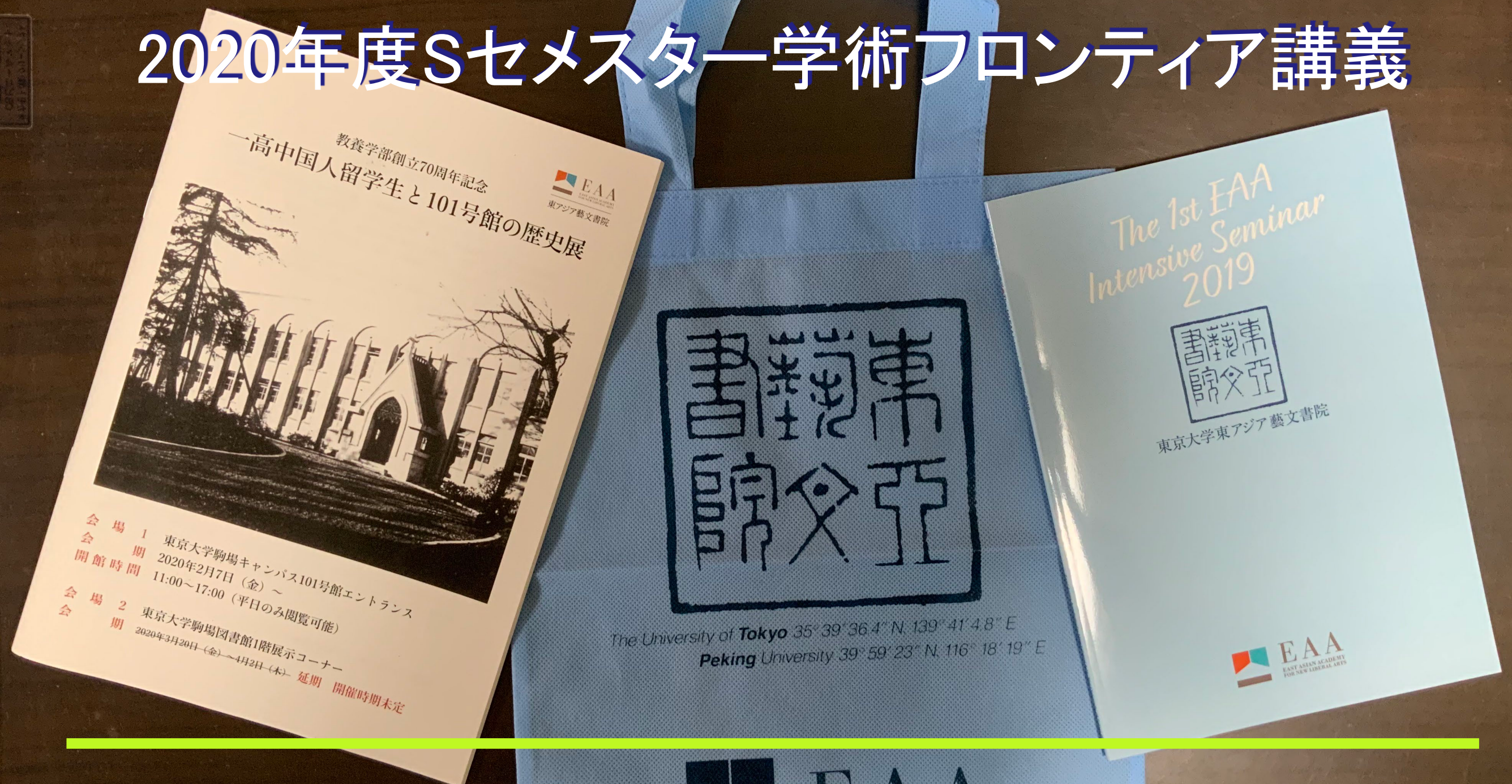
ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

2020年度Sセメスター学術フロンティア講義



30年後の世界へ —「世界」と「人間」の未来を共に考える—

2020年4月10日

石井剛（総合文化研究科/教養学部）

東アジア藝文書院

East Asian Academy for New Liberal Arts



《淮南子·天文訓》

天墜未形，馮馮翼翼，洞洞濔濔，故曰太昭。道始生虛廓，虛廓生宇宙，宇宙生氣。氣有涯垠，清陽者薄靡而為天，重濁者凝滯而為地。清妙之合專易，重濁之凝竭難，故天先成而地後定。天地之襲精為陰陽，陰陽之專精為四時，四時之散精為萬物。積陽之熱氣生火，火氣之精者為日；積陰之寒氣為水，水氣之精者為月；日月之淫為精者為星辰，天受日月星辰，地受水潦塵埃。

小林康夫×中島隆博
KOBAYASHI YASUO NAKAJIMA TAKAHIRO

日本を 解き 放つ

〈日本〉を携え、
世界に羽ばたけ！

空海、世阿弥、徂徠、漱石、
鷗外、そして丸山、武満——
世界の哲学者と対話を
重ねてきた2人が、
〈ことば〉・〈からだ〉・〈こころ〉の
重要テクストを読み解きながら、
〈日本〉を縦横無尽に語る。

東京大学出版会

“火と水の不可能な結婚”

小林康夫、中島隆博 『日本を解き放つ』
東京大学出版会 2019年

東アジア発の 新しい リベラルアーツ

30年後の世界にあるべき学問とは？
そもそも「世界」とは何か？「人間」とは何か？

◆ 中島隆博院長（2020.4-）からのメッセージ

東京大学東アジア藝文書院の新しい院長として一言申し上げます。

現在、わたしたちは新型コロナウイルスのパンデミックに世界的に直面しています。この数十年のグローバル化によって、世界はより稠密に結びついたため、感染の広がる速度は類を見ないほど速いものとなりました。ちょうど100年前、第一次世界大戦とスペイン風邪が世界を揺るがせました。それは20世紀のグローバル化であり、その後世界は、全体主義と世界的な分断に進んでいきました。今わたしたちは再び同じ課題を問われています。この100年間の歴史とそれに対する学問的な蓄積を踏まえて、よりよい世界を構想することが求められています。それは、「何ができる」か以上に、「何を望むのか」を明らかにしなければなりません。近代の人間中心主義とは異なる仕方で、人間を再び問い直すことが必要でしょう。また、その人間が生きる社会のあり方も考え直さなければなりません。それは資本主義や科学技術そして社会の諸システムの再点検に繋がるはずです。

その際に、20世紀の「近代の超克」とは違う仕方で考えてみたいと思います。西欧近代には光と影があり、その影がどれだけ深いかはよく知られていますが、光の部分はそれとして批判的に評価しなければなりません。つまり、特殊なものに退行するのではなく、ある種の普遍的なものに自らを開き続けることが重要なのです。無論、前提されるような「普遍」があらかじめあるわけではありません。そうではなく、普遍化し続ける努力こそ求められているのです。

東アジア藝文書院は、北京大学をパートナーとして、オーストラリア国立大学、ソウル国立大学、ニューヨーク大学、ボン大学と連携する、研究と教育のプラットフォームです。それを支えているのは、多くの方々の「望み」です。とりわけダイキン工業の皆さまには、深く広い「望み」を東アジア藝文書院にかけていただいています。あらためまして御礼申し上げます。

こうした「望み」の上に成り立っている東アジア藝文書院は、国際的な連携のもと、上に掲げた問いを洗練していきたいと思っています。それには、若い知性が輝くこと以外に道はありません。皆さんと一緒に、思考し続けていけたらと思っています。



東京大学
東アジア藝文書院院長
中島隆博

<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/ja/program/message/>

第3回(4月24日)

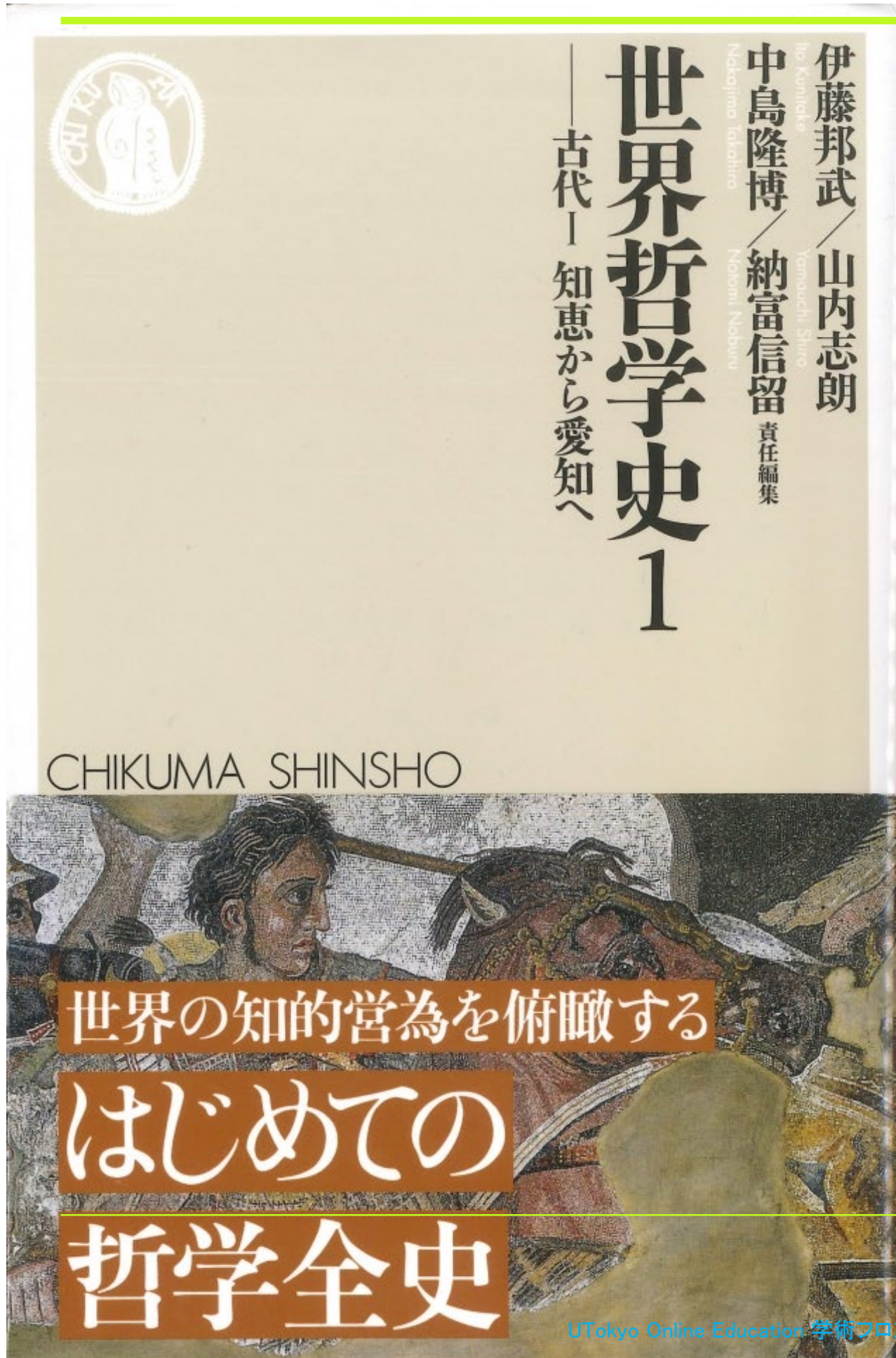
田辺明生 Tanabe Akio

人新世時代の人間を問う
——滅びゆく世界で生きるということ

<http://sites.anthro.c.u-tokyo.ac.jp/tanabe/>

第4回(5月1日)

中島隆博 Nakajima Takahiro



世界哲学と東アジア

伊藤邦武, 山内志朗, 中島隆博, 納富信留
『世界哲学史1—古代—知恵から愛知へ』
ちくま新書 2020年



第5回(5月8日)

武田将明 Takeda Masaaki

小説の人類学
——Gulliver's Travelsを読む

<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/ja/members/>

第6回(5月22日)

羽田正 Haneda Masashi

30年後のための世界史

<https://www.eaa.c.u-tokyo.ac.jp/ja/members/>

第7回(5月29日)

四本裕子 Yotsumoto Yuko

脳科学の過去・現在・未来

東京大学 四本研究室 メンバーより

<http://park.itc.u->

tokyo.ac.jp/YotsumotoLab/pages/members/members.html

第8回(6月5日)

張政遠 Cheung Ching-yuen

30年後の被災地、そして香港

香港中文大学 日本研究学系 教員より
<https://www.jas.cuhk.edu.hk/jp/profile/dr-cheung-ching-yuen/>

第9回(6月12日)

橋本英樹 Hashimoto Hideki

医療・介護の未来

キミの東大 研究室探訪サイト
<https://kimino.ctu-tokyo.ac.jp/2033/>

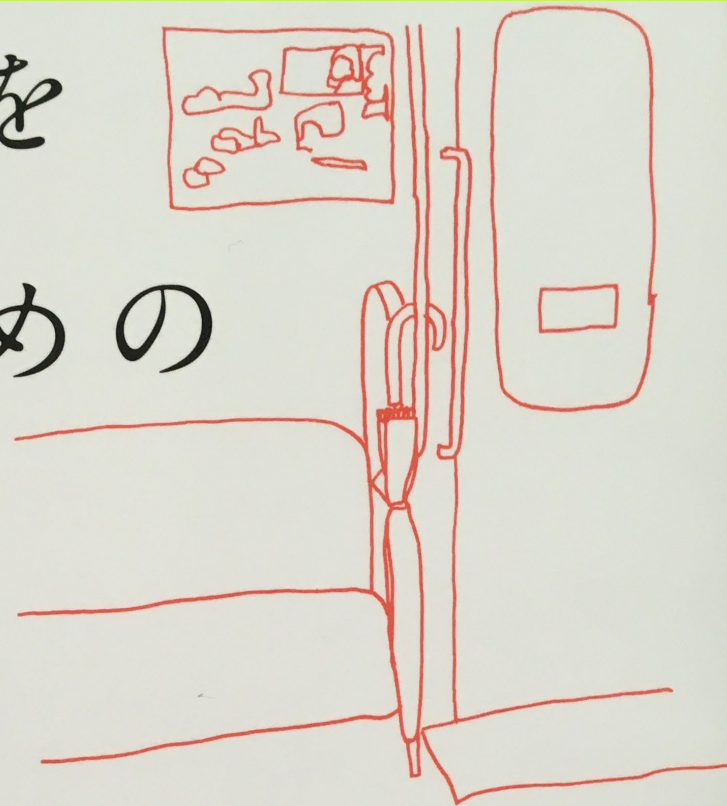
第10回(6月19日)

伊達聖伸 Date Kiyonobu

宗教的/世俗的ディストピアとユマニスム

東京大学教養学部 フランス語・イタリア語部会教員紹介より
<http://langue-fr.c.u-tokyo.ac.jp/staff/>

ことばを
紡ぐための
哲学



中島隆博・石井剛 編著

東大駒場・現代思想講義

失われた
痛みを求めて

白水社

第11回(6月26日)

石井剛 Ishi Tsuyoshi

「中国」と「世界」：どこにあるのか？

中島隆博、石井剛『ことばを紡ぐための哲学』
白水社 2019年

第12回(7月3日)

王欽 Wang Qin

著作権等の都合により省略しました

Configurations of the Individual in
Modern Chinese Literature

Wang Qin

palgrave macmillan

2020

Potentiality and Literature in the Era
of Artificial Intelligence

第13回(7月10日)

國分功一郎 Kokubun Koichiro
× 熊谷晋一郎 Kumagaya Shinichiro

中動態と当事者研究: 仲間と責任の哲学

國分功一郎×熊谷晋一郎:「中動態」と「当事者研究」がアイデンティティを更新する理由

WIRED日本語版 2017年8月31日

<https://wired.jp/2017/08/31/wrd-idntty-kokubun-kumagaya/>